

令和2年度第1回大和市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和2年5月18日（月） 14時00分～14時50分
- 2 場 所 大和市役所 5階 研修室
- 3 出席者 市長 教育委員会（柿本教育長、青蔭教育長職務代理者、小松委員、前田委員、森園委員）
市職員（政策部長他10名）
- 4 傍聴人 なし
- 5 議 題 （1）令和2年度の教育大綱関連事業について
- 6 資 料 ・ 次第
・ 【資料1】教育大綱関連事業一覧
・ 【資料2】令和2年度の教育大綱関連事業について
・ 【資料3】大和市教育大綱

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題
(1) 令和2年度の教育大綱関連事業について
事務局及び所管部：（資料1～資料2について説明）

教育長：国の緊急事態宣言を受けて、大和市では新年度に入ってから全小中学校での休業を続けている。学校現場での新型コロナウイルスとの戦いはまだこれからも続くという覚悟でいる。国や県の動向、大和市全体の取り組みをしっかりと踏まえつつ、子どもたちが学校に通うことができている今だからこそ、我々にできることを、そして、学校が再開した際には子どもたちが学校に通える喜びを感じられるよう、そのための準備を着実に各学校現場で進めていかなければならないと考えている。

さて、教育大綱に関連する事業が数多くある中、今年度も新たな取り組み、充実する取り組みなど、各事業で目的達成に向け、取り組んでいく。それぞれの目的を明確にし、大和市の教育が一層充実していくよう各事業を推進していきたいと考えている。

教育委員：方針1「すべての子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します」の民間保育所建設・増設支援事業と公私連携型保育所等整備事業について意見と質問をさせていただく。

旧青少年センター跡地に建てられる公私連携型の保育所は、隣のやまと公園の整備とも併せて計画されているとのこと、どのような施設になるのか、大和市の子育て世代の皆様は大変楽しみにしていると思う。引き続き、積極的に保育環境の整備を進めていただくよう、願います。私も子育て世代の方々からお話を聞く機会があり、その中には、長きにわたって運営されてきた保育所の老朽化対策などにも、もっと力を入れて欲しいという声や、市の南部で新設される保育所が比較的少ないのではないかとの声も聞く。私も子育てをしていた頃は、わずかな時間でも預かっていただけの場所があることにとても助けられていた。今後も子育て世代の皆様のお力になるよう、利用者や保育士の皆様の声にも耳を傾けながら、計画的に整備を進めるようお願いする。

この先を見据えた、新しい「子ども・子育て支援事業計画」が策定されたと聞いているが、今の大和市の保育環境をどのように考えているのか、また、今後どのように整備していく計画なのかを伺いたい。そして、新しい公私連携型保育所では、中央林間の「子育て支援施設きらきらぼし」のように「送迎ステーション事業」や「一時預かり事業」を行うことに加えて、母子の避難所としての利用も想定していると聞いている。新しい保育所にはどのような特徴があるのか。

所管部：本年3月に策定した第2期子ども・子育て支援事業計画については、今後の幼児教育・保育のニーズ量やそれに対する保育所等の整備量について、令和2年度から令和6年度までの数値目標を掲げている。本市では、共働き家庭の増加に伴い保育ニーズが増え続けており、昨年10月には幼児教育・保育の無償化がスタートしたことにより、引き続きニーズは増加するものと考えている。このため、就学前児童における保育所利用児童の割合である、保育所の申請率については、令和2年4月1日現在で38.5%だが、計画期間の終期となる令和6年度においては46.9%まで増加すると見込んでいる。本市では、これまでスピード感をもって保育施設等の整備を進めるとともに、幼稚園を対象とした本市独自の送迎ステーション事業を開始するなど、多様な保育の選択肢を提供することで、本年4月1日時点において、5年連続で待機児童数ゼロを達成したところである。今後も、保育施設の整備等を計画的に進めていくことで、必要な保育ニーズに適切に対応できるよう努めていく。

公私連携型保育所は、待機児童が集中する0歳児から2歳児までを対象とした「低年齢児型保育所」、市内で3か所目となる「休日保育事業」、保育の受け皿として定員に余裕のある幼稚園の利用を促進する本市独自の「送迎ステーション事業」、理由を問わずに子どもを預かる「一時預かり事業」、地域の子育て支援や親子の交流等を促進する「地域子育て支援拠点事業」、そして保育施設内に

避難生活に必要な備蓄品等を整備し、災害時には、赤ちゃんと母親に特化した特定指定避難所「赤ちゃんまもるくん3」として活用するなど、子育て世代が必要とするサービスを幅広く実施するために様々な事業を一体的に提供する機能を持った施設となる。

教育委員：方針9「人生100年時代」に輝く「学び」の取り組みを推進します」の健康都市大学事業について意見と質問をさせていただく。

大和市では、「人生100年時代」という言葉が定着してきていると感じている。私も実際にご高齢の方から「大和は人生100年なら、私もまだまだこれからだね」という明るく元気なお言葉を聞くことが度々ある。人生の先輩方からその言葉を聞くと、私自身もまだまだ、と元気が出てくる。大和市の健康都市大学は、いくつになっても気軽に学べる居場所であり、元気の源になっていると思う。しかし、現在は新型コロナウイルスの影響で、大和市の公共施設の多くが長い期間休館せざるを得ない状況になってしまい、健康都市大学も休講となってしまった。大変多くの方々が首を長くして、再開を待ち望んでいると思う。再開した暁には、皆様のご期待に応え、より魅力的なものになるよう、益々充実していただきたいと思う。

今後の健康都市大学では、内容の一層の充実を図るとともに、より多くの方に参加していただくため、何か、新たな仕組みや仕掛けを展開していく予定はあるのか。

所管部：今後の充実や発展に向けて、健康都市大学の看板事業でもある「市民でつくる健康学部」では、市民講師だけでなく市の各部署や、市民団体などにも講師を依頼し、講座を実施する予定である。また、市や外郭団体等が主催する「人の健康学部」「まちと社会の健康学部」の講座については、広報活動や企画の発信を拡大するなど、更なる周知を図っていきたいと考えている。さらに、受講ポイントを活用し、学位制の導入などを検討しており、市民の皆さまが継続的に受講する楽しみを提供していきたいと考えている。

教育委員：方針1「すべての子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します」の家庭児童相談事業について意見と質問をさせていただく。

新しい教育大綱の施策の方向性に、「親育ちや地域の子育て力向上を推進する」と明記していただいたことに、私は大変感激しており、今最も大切なことだと思っている。地域には、「若いお母さんの力になりたい」「子育ての相談に乗りたい」と思っている方が本当に多くいることを、私は良く知っている。一方で、不安感や孤立感を感じている子育て世代の方も多くいる。新しく始めた「家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業」は、そのような方々を繋ぎ、地域の子育て力を向上することができる素晴らしい取り組みだと思う。私は、今の時代には、このような人と人とのぬくもりのある関係が本当に大切だと思っている。

このような取り組みを通じて、是非、子育て世代の方々にとって、地域に関わっていくきっかけとしていくことで、親育ちにもつなげて欲しいと思う。

子育て世代の方々から様々な相談があるかと思うが、気軽に相談をしていただけるよう、どのような工夫をしているのか。

所管部 : 家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業は、「子育てひろばなどに出かけづらい親子」や「専門機関の支援を受けるほどではないけれど、ストレスを感じている親」など、支援のすき間で孤立しがちな親子のもとへ支援を届ける事業である。養成講座を受けた子育て経験者が、ホームビジターとしてご家庭を訪問し、お話を聴いたり、一緒に食事をしたり、お子さんと遊んだりする。また、気軽に利用していただけるよう、利用料は無料である。事業者からは、工夫していることとして次の2点を聞いている。まず、ホームビジターの訪問時に、保護者が近隣の目を気にしなくてすむよう、名札等はあえて付けずに近所のお友達の感覚で訪問していること、次に、保護者が緊張せずに日ごろ感じていることを話せるよう、保護者の悩みや相談について子育て経験者として同じ目線で共感し、側にいる子ども達の世話や家事を一緒にしながら話すことである。ホームスタートの精神である、「フレンドリーで、協力的で、思いやりがあり、人を信じ、人を敬い、批判的ではなく、優しく寄り添うこと」に基づき、これからも、子育て世代の方々からの様々な相談に応じていきたいと考えている。

教育委員 : 方針7「健康に関する教育を推進します」の産後健康診査事業と産後ケア事業について、意見と質問をさせていただく。

大和市では、これまでも子育て世代のお母さんに、様々なサポートを行っているが、この度は産後間もないお母さんに健診の助成やデイサービスを行うなど、これまで以上に切れ目のないサポートを行っていくとのことで、大変素晴らしいことだと思う。生まれたばかりの小さなお子さんを連れて、健診を受けに行くのはそれだけで本当に一苦勞である。初めて子育てをするお母さんは、もちろん不安がたくさんあるかと思う。しかし、それだけではなく、二人目の子育てを始めたときは、ちょっとした外出をするだけで、大変な思いをされていると思う。子育て世代の皆さんには、それぞれの事情があるので、一人ひとりに目を向けて、大和市で安心して健康な生活が送れるよう、引き続き取り組んで欲しいと思う。

これらの事業は、今年度の新規事業だが、事業実施に至った背景としてはどのようなことがあるのか。

所管部 : 出産後、ホルモンの急激な変化や体力が十分に回復していないうちに、昼夜を構わず慣れない新生児の世話に追われ、出産後まもない時期の産婦は、心身ともに大きな負担を感じている。また、家族からの産後のサポートを十分に受けられない、相談相手がいないといった産婦も少なくない。産後うつは、出産さ

れた女性の10人に1人が経験するともいわれ、重症化すると児童虐待や自殺にもつながる要因ともなる。本市では、今までも、乳児家庭全戸訪問事業等で、産後うつのリスク判定を行い、支援を実施してきたが、出生連絡票からの把握では、早いケースでは出産後、数日で訪問することができるものの、連絡がとれないと産後3～4か月の時点での訪問となることがある。平均すると産後1か月半でのリスク判定となり、産後うつ等で育児が困難となる前に早期把握し、支援が行えないものか、といった課題があった。今年度より、産後健康診査事業として、公費助成を行うことで産後健診の受診を促すとともに、産後うつのリスクが高まる産後2週間、産後1か月の時期に、出産した医療機関において、心身の状態の確認やエジンバラ産後うつ病質問票による聞き取りを行い、産後うつのリスクが高い産婦については、速やかに市に連絡をもらうことで早期に支援を開始できる。また、産後ケア事業では、産後健康診査や乳児家庭全戸訪問等で把握された、産後うつのリスクが高い産婦やサポートが十分に受けられない、相談相手がいないといった産婦に対し、心身のケアや授乳、育児の相談を実施するものである。食事や間食の提供があり、休養の場としても利用することができる。これら2つの事業を開始することにより、産後うつ等の早期把握・早期支援を行い、産後も安心して子育てができる支援体制を確保するものである。

教育委員：方針8「あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します」の図書館管理運営事業について意見と質問をさせていただく。

大和市では、シリウスをはじめとした図書館がまちづくりと文化発信の中心となっているので、大和市が図書館城下町として、ますます発展できるよう、引き続き教育委員会としても取り組んでまいりたいと思う。教育委員会では、図書館を活用した「調べる学習」に大変力を入れている。AIが日常化する今、自ら書物を読み解いて調べるのが本当に大切なことだと私は考えている。司書の方々のお力をいただきながら、子どもたちに本に触れる楽しさを感じてもらい、様々な学びに繋げることができていると思っている。今後も子どもたちの「調べる学習」、知識の向上に役立てるよう、また、知らない本との新しい出会いができるよう、楽しい図書事業の推進と共に時代に沿った啓発事業、蔵書の充実を図っていただきたいと思う。

今の図書館の指定管理者には、市民目線を持った大変素晴らしい運営をいただいていると感じている。その指定管理の期間が今年度までで、これから来年度以降の新しい指定管理者を募集すると聞いている。来年度以降の新しい指定管理者には、どのような方をお願いしたいと考えているのか。

所管部：令和3年4月1日から令和8年3月31日までの次期指定管理期間においても、一期目に引き続き、図書館のみならず、シリウスの各施設及び学習センター等を一体的に管理運営することで、より効率的かつ効果的に、文化芸術の振興・

読書活動の推進・生涯学習の促進等の取り組みを進める予定である。次期指定管理者は、市が求める一体的管理の考え方を十分に理解し、各施設が積極的に連携する取り組みを進めることができる事業者をお願いしたいと考えている。こうしたことにより、図書館における「図書館城下町 大和市」としての取り組みも、さらに進めることにつながることを期待している。

教育委員：方針2「新しい時代を生きる子ども一人ひとりの確かな学力を育みます」の英語教育推進事業について意見させていただく。

中学校では、来年度から新しい学習指導要領に基づいた英語教育が始まる。新しい学習指導要領では「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」とされている。また、小学校の高学年では、今年度から英語が教科化された。残念ながら、新型コロナウイルス感染症による影響で、まだスタートを切ることができていない。子どもたちには大変申し訳ない想いだが、いつ学校が再開しても良いように、教育委員会としてもしっかり準備していきたいと思う。英語教育の現場では、学ぶべき内容が増えてきている。この変化に対応するには、小中9年間を見据えた学びを意識して行っていく必要があると考えている。そして、これまで以上に、ネイティブスピーカーとしてのALTやAETを活用し、担任や英語科担当教員とのティーム・ティーチングを通して、コミュニケーション能力を育成することが大切になるので、教員には、英語で授業を行う更なる技術の向上が求められる。教育委員会としても、これからの時代に求められている英語教育が行えるよう、取り組んでいく。

所管部：今年度は、教育課程研究協議会において、中学校英語科教員と小学校教員で外国語教育推進部会と、小学校英語専科担当教員で構成する小学校英語専科部会を立ち上げた。大和市全体で英語教育の指導力を高めるため、このような部会の活動を促進して、小中の垣根を越え、ALT、AETとの連携もしっかり図り、問題解決に取り組んでいく。

教育委員：方針2「新しい時代を生きる子ども一人ひとりの確かな学力を育みます」、方針3「様々な体験を通し、豊かな感性を育みます」、方針6「放課後の居場所づくりを推進します」の学力向上対策推進事業について意見させていただく。

大和市では、今年度より放課後事業を平日5日間の開催とし、放課後の居場所づくりをより充実させるため、準備をしてきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校を休業せざるを得ない状況となってしまう、子どもたちにとっては大きな心の傷になってしまっていると思う。「外出せずに、家に居てください」と子どもたちに言わなければならない今、居場所の大切さ、外に出て様々な体験をする大切さを改めて、感じている。国では、今年度は、全国学力・学習状況調査を行わないことを決定した。新型コロナウイルス感染

症の影響による休業で、どれだけ子どもたちの心と学力に影響が出ているのか、過去にないことであり、まだ分からない。しかし、この休業の期間中であってもやれること、できることをしっかり積み上げていくことで、学校が再開したときに子どもたちの心と学力に大きな違いが生まれてくると思う。今、このような状況の中で、学校と教育委員会とで、子どもたちに何ができるのかをしっかりと考えて、対応していきたいと思う。

所管部 : 休業による学力への影響を早期に把握し、休業中であってもでき得る方法で学力の向上に努めていく。放課後事業についても、学校を再開した際には、長期休業でできなかった様々な体験を育めるよう、適切な準備を進めていく。

教育委員 : 方針4「安全で安心して学校生活を送れる環境を整えます」の北大和小学校増築事業と中央林間小学校増築事業について意見させていただく。

北大和小学校の増築は、昨年度ひと段落し、校舎が大変美しく生まれ変わった。これからは、体育館の建て替えに向けて、しっかりと事業を進めていく。中央林間小学校では、これから2年をかけて、校舎の増築を行っていく。長い期間の工事になるので、近隣の方々にご迷惑をおかけしないようにするとともに、ご協力いただけるようお願いしたい。そして、子どもたちの学校生活にできるだけ影響が出ないように努めていきたいと思っている。北大和小学校も中央林間小学校も、児童数が大変多くなっている。これらの事業は、大和市の子どもたちの将来を見据えて、必ず進めていかなければならないものだと考えている。今後も教育環境の整備を計画的に進めていきたい。

所管部 : これらの増築事業については、児童や近隣の方々への影響ができる限り少なくなるよう、計画的に進めていく。

教育委員 : 方針5「多様性を尊重し、他者と共に生きる社会性を育みます」のいじめ等対策事業について意見させていただく。

今般、大変痛ましいことではあるが、医療関係者のご家族の方たちや医療関係者ご本人に対する、新型コロナウイルス感染症に関連した「いじめ」や「偏見」があるとの報道がされている。最前線で自分の感染も顧みず、日夜ご努力をなされている方に対して、その様な言葉がでることが信じ難いことであり、残念でならない。これから学校が再開した暁には、新型コロナウイルス感染症を理由とした差別やいじめが起こる可能性を大変危惧している。そのようなことがないように、未然に防止するための準備が必要と考えている。まず、教員一人ひとりが、新型コロナウイルス感染症について正しい理解をすること、そして、子どもたちには、新型コロナウイルス感染症にかかった方やそのご家族の心を傷つけるようなことは言ってはならない。ましてや、ふざけて「ウイルスに感染している」というような冗談は絶対に言ってはならないと、しっかりと教え

ていかなければならない。長い期間、学校を休業せざるを得ない状況は、大変残念であるが、人と接するときはマスクを着用するなどの思いやりが大切であること、相手の立場になることの大切さを、子どもたちにしっかり伝える機会にしなければならないと思う。

所管部 : 新型コロナウイルス感染症の大流行に直面し、誰もが心を痛めているなかで、それを理由とした差別やいじめが学校で起こることは、絶対に防がなければならない。教育委員会としても、学校現場と連携し、丁寧に対応していく。

教育委員 : 今、新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中がこれまでにない危機を迎えている。人の命、心、生活、あらゆることにどれだけの影響があるのか、まだ全体を見渡せる状況にすらない。先日、この問題が起きたときに、イタリアの高校の先生が、「集団のパニックに巻き込まれず、予防策を講じながら、いつもの生活を続けて欲しい。最後に、良質な本を読んでください。」と17世紀のある本を引用しながら生徒にメッセージを送っている。平穏に暮らせるように、私たちが大和市の子ども達のために走りたいと思う。このような中、大和市民、大和市の教育のために何ができるのか、一人ひとりが冷静に考えて、乗り越えていかなければならないと思う。教育委員会としては、必要とされていることに対して、真摯に対応し、この未曾有の危機を乗り越えた先の将来を見据えて、一つひとつの事業に着実に取り組んでいきたいと思う。

4 その他

5 閉会